



①どれにしようかと悩むのも楽しいな社員の皆さん
②ソーシャルディスタンスを保ちながら弁当をいただく社員
③早朝から腕を振るう徳田シェフ

美味しい弁当が 食堂に勢揃い

4月21日午前9時、同社能登川事業場には、能登川地域の飲食店8店舗から総数350食の弁当が搬入されました。この日、40食の色鮮やかな弁当を届けた仕出し・会席料理店の田中めぐみさんは、「こうした企画を提案いただき、ありがたいことです。ぜひ、お店にもお越しいただきたいです」と感謝の思いを口にします。

各店舗からの弁当を食堂入口のテーブルに並べ、社員の皆さん

応援事業の第2弾 デザートフェア

2月から始まったこの取り組みは、5月から8月までの夏場は、デザートフェアに内容を変更。



は、自分好みの弁当を選んで購入。通常、社員食堂の定食は、一食400円。この日も差額分を会社側が負担することで、皆さんは400円でポリウム満点の弁当を食べることができ、満足げな様子でした。

今年4月に入社した女性社員は、「盛りだくさんの弁当で美味しくいただきました。来月のデザートフェアも楽しみです」と笑顔で話しました。

5月20日の初日には、弁当同様、和菓子や洋菓子を扱う能登川地域の6店舗から総数400個のデザートが搬入されました。テーブルに並ぶカラフルなデザートの中から社員の皆さんはお好みのデザートを選択。社員食堂の定食に地元デザートが付いて、400円で味わうことができ、デザートフェアも大好評となっています。

この日、同社能登川事業場からの注文を受け、早朝から従業員4人と手際よくショートケーキ70個を作った洋菓子店の徳田篤シエフは、「『お菓子でみんなを笑顔に』をモットーに、従業員と一緒に日本電気硝子株式会社で働く皆さんの笑顔を思い浮かべながら頑張っています」と心境を語ります。

弁当やデザートが結ぶつながりを大切に

日本電気硝子株式会社 能登川事業場長 谷波正巳さん

今回の取り組みは、従業員の地元の飲食店を何とか応援したいという思いがかたちになったものです。手探り状態でのスタートでしたが、東近江市商工会の皆さんにサポートをいただき、食堂内で従業員の明るい笑顔を見ることができました。そのお店の一押し料理を弁当やデザートで提供してもらうことで、従業員がそのお店のファンになり、アフターコロナでの常連客になってもらえることも期待しています。従業員一人一人の支援が積み重なったこの取り組みは、コロナ禍が続く間は継続していきたいと考えています。



特集 コロナに負けないまちづくり



①笑顔とともに美味しい弁当を配達します
②作り手の思いがぎゅぎゅ詰まったショートケーキ
③社員の皆さんに大好評の大福をお届け



地域飲食店応援事業

“美味しい”は コロナに 負けない!

地域の飲食店から 弁当300食

今町にある日本電気硝子株式会社 社能登川事業場では、今年2月から毎月2回、能登川地域の飲食店から弁当300食を購入し、社員食堂で販売しています。

この取り組みは、同社能登川事業場が今年で創設50周年を迎える

に当たり、これまで地域に支えられてきた感謝の思いを何とか地域貢献でお返しをしたいという思いからスタート。コロナ禍で大きな打撃を受けている地域の飲食店に対して何か支援できないかと東近江市商工会に相談を持ちかけ、実現に至りました。

弁当は、社員の皆さんに好評で、当初の300食から320食、350食と4月から発注数も増えていきました。

この取り組みの様子を取材させていただきましたので紹介します。



新型コロナウイルス感染症の拡大で、これまで当たり前に行われてきた地域活動が中止や自粛となり、店舗や企業経営に影を落とす日々が続いています。しかし、こんなときだからこそ、さまざまな工夫を凝らしながら活動されている人もいます。今回は、そんなコロナに負けない取り組みを紹介いたします。